

屏風から見る 寛永行幸

後水尾天皇が武家の城である二条城へ行幸される——。当時おそらく日本中で話題になった一大イベントである寛永行幸（二条城行幸）は、書物や絵巻などに記録が残され、後世に語り継がれてきました。なかでも、特に興味深い絵画資料が「二条城行幸図屏風」（京都市指定文化財 泉屋博古館所蔵）です。御所と二条城の間を進む公家と武家の行列。そして何より特徴的なのは、おしゃべりをしたり、酒を酌み交わしたりしながら、行列を見物するたくさんの民衆です。その姿からは、現代の私たちが祭りを沿道で眺め、楽しむのと同じ熱気が伝わってきます。この「二条城行幸図屏風」に何が描かれ、私たちに何を教えてくれるのか。寛永行幸から四百年の節目を一年後に控え、各ジャンルの専門家が読み解くシンポジウムを開催いたします。

日時 2025年9月6日(土) 13:30～16:30 (開場13:00)

参加費 無料(事前申込要)

申込先

会場 京都府公館 (京都市上京区烏丸通一条下る龍前町590-1)

定員 90名(先着順)

peatix



登壇者 実方葉子 (泉屋博古館学芸部長)

山科言親 (衣紋道山科流若宗家、山科家30代後嗣)

西山 剛 (京都文化博物館主任学芸員)

松本直子 (元離宮二条城事務所学芸員)



「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)

寛永行幸四百年祭一年前記念シンポジウム

屏風から見る 寛永行幸

「寛永行幸四百年祭」について(趣旨説明)

実方 葉子	「二条城行幸図屏風」の絵画的特質	”絵”として捉えてみると…
山科 言親	「二条城行幸図屏風」から見た有職と装束	行列参加者の装束に注目！
西山 剛	都市民が見た二条城行幸	町人にとってはどんなイベントだった？
松本 直子	二条城行幸 絵画と記録	行幸を”記録する”意味とは？

パネルディスカッション・クロストーク

寛永行幸／寛永行幸四百年祭とは？

寛永3年(1626年)9月。大御所(2代将軍)・徳川秀忠と3代将軍・徳川家光の招きに応じて、後水尾天皇が徳川將軍家の京都の拠点である二条城へ行幸されました。日本中の大名が参加し、江戸時代が安寧の世であることを予感させたこの「寛永行幸」から来年で四百年の節目を迎えます。これを記念して、来年、2026年に京都市を中心とした各所で「寛永行幸四百年祭」を開催いたします。



「二条城行幸図屏風」部分 江戸時代(京都市指定文化財 泉屋博古館蔵)

日時 2025年 9月6日(土) 13:30～16:30 (開場13:00)

会場 京都府公館 (京都市上京区烏丸通一条下る龍前町590-1)

問合せ先 info@livinghistory-kyoto.com

参加費 無料(事前申込要)

定員 90名(先着順)

申込先

peatix

<https://peatix.com/event/4513425>



寛永行幸四百年祭を応援したい！

基金で応援

京都文化交流コンベンションビューロー
「寛永1626基金」で寄付を募集しています
(問合せ先: kan-ei@hellokcb.or.jp)

ふるさと納税で応援

京都府の企業版ふるさと納税
によるご寄付が可能です
(以下URLより)。

<https://www.pref.kyoto.jp/chiiikousei/kgiyouban.html>



SNSで最新情報をチェック



Instagram



X



主催 寛永行幸四百年祭実行委員会(文化庁連携プラットフォーム内)

共催 Living History KYOTO

協力 泉屋博古館

地下鉄「今出川」駅6番出口より徒歩約5分
市バス「烏丸今出川」停より徒歩約5分